

意見書案第 17 号

日米共同訓練の中止を求める意見書

上記の意見書を次のとおり提出します。

令和 6 年 7 月 3 日

大津市議会議長

幸 光 正 嗣 様

提 出 者 杉 浦 智 子
林 ま り
柏 木 敬 友 子
小 島 義 雄

日米共同訓練の中止を求める意見書

陸上自衛隊陸上幕僚監部は、去る4月11日、本年7月に中部方面区域などで米陸軍と中部方面隊による実動訓練（オリエント・シールド）を実施すると、新年度の陸上自衛隊主要訓練・演習の年度広報で発表した。オリエント・シールドは、米陸軍と陸上自衛隊が毎年実施している国内最大規模の実動訓練である。今回の訓練の場所・内容について、陸上自衛隊は調整中としているが、中部方面区域内ではこれまで、120ミリ迫撃砲などの実弾射撃訓練が唯一行える饗庭野演習場（高島市）で繰り返されており、今回も饗庭野演習場での実施が濃厚である。饗庭野演習場で実施されれば、今回で19回目の日米共同訓練となる。

2021年以降のオリエント・シールドは、米陸軍MDO（マルチドメイン作戦）と、陸上自衛隊CDO（領域横断作戦）を連携した実動訓練を行っており、陸・海・空だけでなく、宇宙・サイバー・電磁波など、敵国を制圧するためにあらゆる分野で共同し、対中国を想定した危険な訓練に様変わりしている。

その上発表直前に開かれた日米首脳会談（日本時間4月11日未明）の共同声明は、「作戦及び能力のシームレスな統合を可能にし、平時及び有事における自衛隊と米軍との間の相互運用性及び計画策定の強化を可能にするため」として、「それぞれの指揮・統制の枠組みを向上させる」としている。自衛隊が米軍の事実上の指揮下に組み込まれることとなるもので、この下で実施される今回の訓練は、憲法違反の敵基地攻撃に留まらず、国連憲章違反の先制攻撃のための訓練となるもので、断じて容認できない。

前回2021年の饗庭野演習場でのオリエント・シールドでは、訓練期間中に120ミリ迫撃砲弾が演習場外に着弾するという人命を奪いかねない重大事故が発生した。しかし共同訓練は中止されることはなく、人命より軍事が優先された。今回の訓練では、新配備の16式機動戦闘車（MCV）や戦闘ヘリからの実弾射撃訓練など、かつてなく危険な訓練となる可能性が強まっており、地元住民が危険な訓練の中止を求めている。

饗庭野演習場での訓練の実施に伴い、大津市市街地の上空におけるヘリコプターの飛行が頻繁になっていることから、市民から不安の声が高まっている。

今、日本に求められているのは、東アジアの軍事的緊張を激化させる戦争の準備ではなく、外交による平和の準備である。

よって国及び政府においては、戦争の準備のための日米共同訓練を中止するよう強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和6年7月3日

大津市議会議長 幸 光 正 嗣

内閣総理大臣

防衛大臣

衆議院議長

参議院議長

あて